時事新報

歐洲國際の關係（前號の續き）

露國政府は三億ルーブルの外債を起さんが爲めに頻りに平和を裝飾するの次第い前號に於て之れを記したり此の如く露國其軍備と張るに當りては獨逸政府も亦大に備ふる所あかる可らずと云ふの決心より陸軍大臣は獨逸聯邦上院に兵備擴張の議案を提出し二億八千百五十五萬零五百五十マルクの軍費支出を求めたるに上院い異議なく之を可決して其内の二億七千八百三十三萬五千五百六十二マルクを新公債の支拂と爲し殘る三百二十一萬四千九百七十四マルクは中央政府より夫れ〳〵聯邦諸州に割當て〻之を徴集するに決し更ふ聯邦民撰院の討議にも附したるに同院も遂ふ多數を以て其原案を通過せしめたるは去る二月初旬の事なりしと云へり而して獨逸政府は此二億八千マルクの軍費を以て如何なる計畫を爲すの意なりやと尋ぬるにランドウェルと稱する勇兵の組織を改正〻新ふ七十萬の兵を增す手段にして今日既に訓練を了りさる戰時兵二百六十五萬の數に合計すれば今後は更に三百三十五萬の精兵を戰場に繰出し得るの準備を爲す者ありビスマルクが右の議案を出すに當り議院に於て演說したる要略を見るに今日歐洲の形勢は戰爭目前に破裂すべしと云ふほどの急に迫りたるに非ざるども何時如何やうなる事變起りて獨逸帝國の安全を妨ぐるなゝを期す可らず露佛諸國の飽くまでも我に對する交親と失いざるは勿論あらんなれとも法迚今の獨逸帝國の兵備にては枕と高うして眠ひる能いざる切迫の事情あるが故にランドウェルの制と擴張して七十萬の兵を增すの計畫大切なり云々との旨趣なるが如し方今歐洲列國の中に在りて兵數の多きは露國ならんと雖も之を外にしてい指を獨逸に屈せざる可らず況て軍規嚴肅、兵師精練の點に於ては今日既に全歐中獨逸に及ぶ者あらざるに何の要用あつて七十萬の新兵を募るとか疑はざると得ざるなり且つ歐洲にては非今到る處株式の變動甚しく種々の風說相結んでブールス相場の亂高下已まざるよりハムブルグの商人某は書をビスマルク公に送り歐洲の戰亂果して免る可らざるや否やを尋ねたるに公い本年中に交戰の沙汰なかる可きは勿論、歐洲の平和自今三年の間は保證すべしと答へたる由諸新聞紙の報する所なれども一方に三年間の平和を保證したる其口舌を以て他の一方には七十萬の兵に二萬八千萬マルクの公債と要する演說と爲しさるい前後矛盾の次第にして我輩より之を見ればビスマルクがハムブルグ商人に答へたるの一言は英雄人を欺くの類なりと外に思いれざるあり

右れ如く獨逸々頻りに兵備を擴張するは早晩戰爭の避く可らざると覺悟したる明證あるに似たれども既往の成跡に據て獨逸帝來の政略如何んを考ふるに今日よそ墺地利匈牙利と相結んで飽くまでも露國に敵するの形狀を示すとなれども時れ都合にて寧ろ墺國を犧牲にするも露國と交親を密にして得策なるの場合にい今の墺國に對しても前後反對の處置を加ふるなきと期す可らず抑も列國の交際は人情にて輕き筆に又た義理にも依頼する能はざる者にして互に私情の在る處に離合聚散「反覆其常なき」が故に獨逸の今日、墺國に結ぶ手段も掌を翻へせば明日、佛蘭西國に與るの方便なるやも知る可らず去る千八百六十六年の例に驗て之と見るに普魯西（即ち今の獨逸）は當時　レレスヴィヤング　ボルスダイン二州の爭に關して墺地利と釁を開き適々佛國が背後より墺國を助くるあらんとを恐れ之を說くに中立の利を以てして佛墺二國の同盟を妨げ墺國を單獨無援の地に陷れてサドワの役に之を破り、斯て北日耳曼聯邦を建立したる後ち間もなく千八百七十年に至りては更に墺國を欺くに佛國の暴威を抑へざるの不利なるを以て之と引て陰然己れの援と爲しセダンの戰に遂にナポレオンを生擒しさるは世人の知る處なる可し成敗の跡に就て驗すれば佛墺の二國は獨逸の爲めに巧に欺かれたる者にして若〻始めより此事あるを知るに於ては千八百六十六年の戰に佛墺疾くに連合〻て獨逸を討つの相談も纔さりしならんなれども各々私利の爲めに先見の明を掩はれ兩國前後相尋で失敗して豎子の名を成さしめたるは惜む可きの次第なりと雖も之に均しく方今暫らく墺國に結ぶを利益なりとするが故に露國に對しても仇讐を裝ふに過ぐ可らず若しも利害を計較し寧ろ墺國に信を失するも尙は露國と戰端を開ざるを優れりとするの考へあらば獨逸はバルガリヤに對する露國の要求と容れて其歡と買ふの手段も大切なるべん即ち過日のルートル電報にもビスマルクは露國がフエルヂナンドを廢す可しと云ふの說に同意し英相ソールズベリーに對して英國も露國の墺に贊成するの要用ある旨と勸告する筈なり云々と見えたるは事頗る儲單にして未だ詳細を知るに由なけれども暫らく我輩の想像を以てそれで徒に墺國の爲めに聲援して露國の怨を招くを憚り寧ろ墺國に信を失するも露國との和親を破らざると得策とするの考へにて斯る手段に及びたる者ならんかと思はるゝあり　（未完）

電報

○綿絲組合會議の解散　仙臺四月六日午後特發　當仙臺の區會議事堂に開會中なる宮城蠶絲業組合總會い法律に抵觸する所ありとて本日散會しさり

○花房次官及び讃岐鐵道　神戸四月六日午後特發　花房農商務次官は今夜當地へ來着の筈なり讃岐鐵道會社にては來る十日起工式を擧行する都合なり

○縣知事兩書記官　仙臺四月六日午前特發　水產共進會及び警察業落成式に臨場の爲め宮城縣知事松平正直氏及び和達孚嘉後藤敬臣の兩書記官及び警部長菅井誠美氏い本日當地を發して石卷へ出張したり

○尾ノ道疏浚起工式　廣嶋四月六日午後特發　本日尾ノ道疏浚工事の起工式あり千田廣嶋縣知事、奈良縣書記官平山靖氏も臨場〻煙火等を打上ゲ市中は最と賑はへり

○改修式　備後尾ノ道四月六日午後特發　本日尾ノ道港改修式を行ひ千田廣嶋縣知事臨場したり

○佛國內閣の組織　倫敦四月三日發　佛國政府の新內閣組織成りフロッケー（Floquet）氏は內閣議長兼內務卿、ゴブレー（Goblet）氏は外務卿、フレシネー（Freycinet）氏は陸軍卿、ペートラル（Peytral）氏は大藏卿、レグラン（Legrand）氏は商務卿の職に就けり

宮廷錄事

○明宮殿下　には一昨五日午後より東京鎭臺第三聯隊へ成らせ給ひるるよし

雜報

○內閣會議　各大臣は昨六日內閣に於て定例會議を開き午後四時頃退出したりと

○高嶋中將　管下各營所の巡視中なりし大坂鎭臺司令官高嶋中將は去る一日歸臺したるよし

○花房次官　聯合共進會の褒賞授與式へ臨場の爲め大分縣に赴き歸途各府縣の巡廻中なる花房農商務次官は兩三日中に歸京するといふ

○兵營巡視　陸軍戶山學校長歩兵大佐芳木懷昭氏は歩兵訓練上實地視察の爲め東京名古屋兩鎭臺管下兵營の各聯隊へ向け此程東京を出發したるよし

○演習巡視　陸軍教導團長歩兵大佐阿武素行氏は同團砲兵大隊の行軍演習視察の爲め埼玉縣下へ赴きさりと

○地方官歸任　上京中の諸方山形縣書記官は昨六日歸任の途に就きりと

○東條英敎氏　獨逸國に留學を命せられたる陸軍大學校幹事心得東條歩兵大尉は今七日午後四時新橋發の汽車にて横濱へ赴き明八日午前八時同港發の佛國郵船に搭し歐洲に渡航そる由又氏の獨逸留學は三ヶ年の見込なりと

○奈良原繁氏　日本鐵道會社長奈良原繁氏は歐米各國の鐵道實況視察の爲め來る五月中旬頃渡航の筈なりと云ふ

○敍任及辭令　四月六日

宮崎縣北諸縣郡長　谷村　純孝

任宮崎縣東諸縣郡長（敍奏任官五等賜下級俸）　竹內　實知

同縣東諸縣郡長　同縣北諸縣郡長（同六等賜中級俸）

任宮崎縣北諸縣郡長　京都府收稅長奏任官四等　大塚　格

中級俸下賜

新潟縣收稅長同　渡邊　義郎

群馬縣收稅長同　飯塚　忠成

鳥山縣收稅長同　野崎萬三郎

宮城縣收稅長同五等　山田　撰一

山形縣收稅長同　飯嶋　宗條

上級俸下賜

遞信省燈臺局次長　遞信省燈臺局會計主務ヲ命ス　草間　時福

○位階を進めらる　非職元農商務少輔正五位勳三等森岡昌純氏い特旨を以て昨六日位階を進め從四位に非職掌典從六位山田有年氏は去る五日從五位ゑ何れも敍せられたりと

○貿易替　東京府華族正五位男爵北河原公憲氏は奈良縣へ貿易替を出願の處一昨五日聞屆ゆられたるよし

○武官免職　陸軍歩兵中佐寺內清祐氏は東京滯在と免せられ又近衛監督部長一等監督吉澤直行同部陸營課長三等監督會山庸の兩氏は本職を免せられたりと

○谷元道之氏　此程關西鐵道會社の總會嗅に出席の爲め勢州四日市へ赴ゐたる同氏は一昨五日歸京しさりと

○高木軍醫總監　は一昨五日横須賀各市營并に同港碇泊各軍艦の檢閲をなし昨六日歸京したるよし

○佛國の內閣　フロケイ氏が新內閣組織につきフレシネー、ゴブレーの兩氏と協議するならんとの電報は昨日の本紙電報欄內に掲げたる通りなるが横濱なるヘラルド新聞の記載する所に據れば此電報に由り推測そるに新內閣は未だ組織されざるもフロケー氏は其組織につきフレシネー、ゴブレーの兩氏より充分なる助勢を受るものゝ如し元來フレシネー氏は內閣議長の任にありさること前後三回にして千八百七十九年始めて之に上任しさる時は在職甚だ短くしてフェリー氏が其後任と襲ぎ其次の上任は十八百八十二年ガンベッタ氏の退職後にして此時も數箇月間の在職にしてタユクレルク氏ゑ更にゴブレーの兩氏ゑ上任しさるを以て在るとを期す可らず下議院の議員は回も復さフレシネーたる位なれども承諾せざるなりと

○法官會議　去る二日は相談等にきたるよし

○牛徒募集　昨日再び募集を募集する

○横濱重罪　期重罪裁判所

○地所家屋　は在來は付府縣へ

○大坂府下　の各學校は爲し居り行したる等の小學校

兵場に入る　に裝設せし

銃の技藝　に演じ散會

參觀の人々　教諭教員等

校等數名あ　に詰掛けた

も一時の狹　降雨を能は

よしなり

○愛知縣會　然辭職した